

表 4093 2014年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析単独患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	1,928 (81.5)	275 (11.6)	85 (3.6)	31 (1.3)	18 (0.8)	29 (1.2)	2,366 (100.0)	1,766	4,132	0.36	1.07
腹膜透析 (APD) (%)	1,139 (79.7)	158 (11.1)	53 (3.7)	21 (1.5)	21 (1.5)	37 (2.6)	1,429 (100.0)	907	2,336	0.50	1.46
腹膜透析 (CCPD) (%)	398 (80.6)	62 (12.6)	21 (4.3)	6 (1.2)	1 (0.2)	6 (1.2)	494 (100.0)	226	720	0.34	0.95
合計 (%)	3,465 (80.8)	495 (11.5)	159 (3.7)	58 (1.4)	40 (0.9)	72 (1.7)	4,289 (100.0)	2,899	7,188	0.40	1.21
記載なし (%)											
総計 (%)	3,465 (80.8)	495 (11.5)	159 (3.7)	58 (1.4)	40 (0.9)	72 (1.7)	4,289 (100.0)	2,899	7,188	0.40	1.21

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy